



核兵器禁止条約の 制定について見解は

加藤敏彦 議員

大変意義のあることだ

市長



▲核兵器廃絶国際署名のポスター

国連は、7月7日、核兵器禁止条約を122カ国の賛成で採択した。人類史上初の核兵器禁止条約の採択は、日本の被爆者をはじめ、核兵器のない世界を求める世界各国と市民社会の多年にわたる協働の取り組みが結実した、文字どおり歴史的な壮挙である。非核平和都市宣言を行っている愛西市の長として、どのような見解か。

市長 平和首長会議並びに日本非核宣言自治体協議会に加盟する本市にとっても大変意義のあることだ。ぜひこの宣言を実現していただきたい。日本政府が、唯一の被爆国の政府であるにもかかわらず、核兵器禁止条約に背を向ける態度をとっている。特に被爆者や被爆地からは厳しい表明があった。市長としてどう思うか。

市長 第9回平和首長会議総会にて、「核兵器禁止条約の早期発効を求める特別決議」をしている。我々としてはしっかりと

かり支持をしていきたくていきたいと思います。

今年の平和祈念式の平和講演で、95歳の松永一雄さんが、過酷な戦争体験を語られた。このような貴重な体験を保存できないか。

企画政策部長 平和講演の保存については、講演者並びに遺族会との協議により、今年度は保存をすることを承諾していただいた。今後は、講演者の意向を第一に、活用を

学校プールの開放は公平に

佐屋地区に一極集中するような形でプール事業が進められている。今の学校プールの開放のあり方は公平ではないと考えられる。市長の見解を伺いたい。

市長 現状としては、佐屋小学校のプール開放事業をお願いをしたい。



▲佐屋小学校のプール開放